

授業科目名	【G】 経済学Ⅱ 【H】 経済学Ⅱ	区分 選択	開講年次	【G】1 【H】1	単位数	【G】2 【H】2
科目区分	基本科目：【G・H】教科及び教科の指導法に関する科目(中社・一・公民・一)					
授業形態	対面授業					
担当形態	単独	【G】 教員の免許状取得のための(中社選択・一・公民選択・一)科目 【H】 教員の免許状取得のための(中社選択・一・公民選択・一)科目				
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項：「社会学、経済学」(中一種免社会) 「社会学、経済学(国際経済を含む。)」(高一種免公民)					
サブタイトル	問題演習を通じて金融と財政を理解する			担当者	小川 竜明	
授業概要	概要	<p>これまで、本科目を履修する学生の多くが教員志望者や公務員志望者であった。そこで、経済学Ⅱでは、教員採用試験や公務員採用試験で頻出の「金融」と「財政」を学ぶ。</p> <p>とは言え、経済学の基本がわからなければ、金融と財政を学習してもその効果は乏しい。そのような意味で、前期の「経済学Ⅰ」を履修し単位を修得してから本科目を履修するのが望ましい。ただし強制ではないので、経済学Ⅰの学習内容を簡単に振り返りつつ、金融と財政を学習する。</p> <p>次の(1)～(4)を達成するため、予習(各回の「ワークシート」にある問題を解いてくること)を必須とする。</p> <p>(1) 問題を解く作業を通じ、「わかるもの」と「わからないもの」に分けることができる。</p> <p>(2) 授業では、予習の段階で「誤解していたもの」や「わかつたつもりでいたもの」、「わからなかったもの」に重きを置いて説明を聞くことができる。</p> <p>(3) 「同じ間違いを繰り返さない」という復習の意味を見出すことができる。</p> <p>(4) 教員採用試験や公務員採用試験の出題方式や出題傾向を知り、対策を立てることができる。</p> <p>「本科目を受講して良かった」と心から思える秘訣は、これらを完遂し、高い学習効果を得ることに尽きる。</p>				
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済の仕組みがわかり、さまざまな経済事象や経済問題について、自分の頭で考え、自分なりの答えを出し、さらにそれを自分の言葉で説明できるようになる。</li> <li>・物事を深く、且つ多面的に捉えられるようになる。</li> <li>・教員採用試験や公務員採用試験の出題方式や出題傾向を把握し、今後の学習計画が立てられるようになる。</li> </ul>				
履修条件	<p>授業中はスマートフォンやタブレット端末、パソコンなどには一切触れず、真摯な姿勢で授業に臨む意志があり、予習と復習を欠かさず行うこと、且つ次の(1)、(2)の両方またはいずれかに該当する者。</p> <p>(1) 教員、国家公務員または地方公務員(警察官、消防官を含む)を志し、採用試験に合格するためならば、いかなる努力も惜しまない者。</p> <p>(2) 経済に関心があり、経済について限りなく深く分かろうとする気概を持つ者。</p>					
アクティブラーニングの方法	【○】 事前学習型	【-】 反転授業	【-】 調査学習	【-】 フィールドワーク		
	【-】 双方向アンケート	【-】 グループワーク	【○】 対話・議論型授業	【-】 ロールプレイ		
	【-】 プレゼンテーション	【-】 模擬授業	【-】 PBL	【-】 その他		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	- (当てはまらない)				
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	- (当てはまらない)				
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	◎ (よく当てはまる)				
	DP(ディプロマ・ポリシー)④	- (当てはまらない)				
他科目との関連性	<p>①あらかじめ履修を済ませてほしい科目：経済学Ⅰ</p> <p>②同時に履修することが望ましい科目：特になし</p> <p>③当該科目を履修した後で履修してほしい科目：国際経済論Ⅰ、国際経済論Ⅱ</p>					
教科書	教科書は使用しない。 教材(問題を掲載したワークシート)や資料(経済の仕組みや問題の解説等を載せた授業で使用のもの)は全てGoogle Classroomを通じて配信する。 毎回授業が始まる前にGoogle Classroomにアクセスし各自で印刷をして授業に持ってくる(教室でこれらを配付することは無い)。 教材や資料は、原則として授業後1週間が経過するとGoogle Classroomでの公開を取り消すので、小忠実にGoogle Classroomにアクセスすること。					
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戸崎肇『実践 日本財政学』芦書房、1996年。</li> <li>・小峰隆夫『世の中の見方が変わる経済学』東京書籍、2023年。</li> <li>・宿輪純一『はじめまして、経済学』株式会社ウェッジ、2024年。</li> <li>・資格試験研究会編『公務員試験 新スーパー過去問ゼミ7 財政学[改訂版]』実務教育出版、2024年。 その他、適宜紹介する。</li> </ul>					
評価方法	<p>下記の(1)小テストまたはミニレポート(配点36)、(2)学習到達度確認テスト(配点64)の結果を総合的に勘案し評価する。</p> <p>(1)小テストまたはミニレポートは、第2回から第13回の授業時に行う(3点×12回、基本的に答案の出来により0点～3点を付与)。</p> <p>・小テストおよびミニレポートはその日に学習した内容の理解度を測るものである。</p> <p>(2)学習到達度確認テストは、授業で学習した経済理論について論述する(各問の配点に基づき正答に応じて得点を付与)。</p> <p>小テストおよび学習到達度確認テストは、配付した資料やノート、スマートフォン等の電子機器類の持込みをすべて「不可」とする。</p>					
フィードバック方法	小テスト(ミニレポート)のうち、誤答(誤解)が多いものについては別途解説を行う。 解説が多くなると、その分だけ下の授業内容は変更することになる。					
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内容について、これをよく理解し、答案等に自分の言葉で適切に表現できた者にはその程度に応じて「S」または「A」を与える。</li> <li>・単元の内容についての理解や表現に、何らかの不適切ないし若干不足する点がある者はその程度に応じて「B」または「C」とする。</li> <li>・単元の内容についての理解自体が不十分な者はその程度に応じて「D」または「E」とする。</li> <li>・小テストを複数回受験しない者や学習到達度確認テストを欠席した者など、評価不能の場合は「F」とする。</li> </ul>					

授業科目名	【G】	経済学Ⅱ	区 分	開講年次	【G】1	単位数	【G】2
	【H】	経済学Ⅱ	選 択		【H】1		【H】2
授業回数	授業内容						
1	Part.0【オリエンテーション】、Part.1【経済学を学ぶ上での仕込み】経済主体である「家計」「企業」「政府」の関係を復習する 予習： シラバスを熟読し疑問に思ったことをメモしておく(15分) 復習： 学んだことを500字程度にまとめ、教員になったつもりで今回の授業の再現を試みる(165分)						
2	Part.2【金融】基本事項(1)―貨幣が持つ4つの機能を押さえる 予習： ワークシート[2]の問題を解く(15分) 復習： 学んだことを500字程度にまとめ、教員になったつもりで今回の授業の再現を試みる(165分)						
3	Part.2【金融】基本事項(2)―わが国の中央銀行である日本銀行の4つの役割を押さえる 予習： ワークシート[3]の問題を解く(15分) 復習： 学んだことを500字程度にまとめ、教員になったつもりで今回の授業の再現を試みる(165分)						
4	Part.2【金融】政策(1)―金利について理解を深め、「公定歩合操作(日本銀行の「伝統的」金融政策の1つ)」を押さえる 予習： ワークシート[4]の問題を解く(15分) 復習： 学んだことを500字程度にまとめ、教員になったつもりで今回の授業の再現を試みる(165分)						
5	Part.2【金融】政策(2)―「信用創造」の意味を正しく理解し、「預金準備率操作(日本銀行の「伝統的」金融政策の1つ)」を押さえる 予習： ワークシート[5]の問題を解く(15分) 復習： 学んだことを500字程度にまとめ、教員になったつもりで今回の授業の再現を試みる(165分)						
6	Part.2【金融】政策(3)―「マネタリーベース」を増減させる「公開市場操作(日本銀行の「伝統的」金融政策の1つ)」を押さえる 予習： ワークシート[6]の問題を解く(15分) 復習： 学んだことを500字程度にまとめ、教員になったつもりで今回の授業の再現を試みる(165分)						
7	Part.3【財政】基本事項(1)―財政の3つの機能(役割)を押さえる 予習： ワークシート[7]の問題を解く(15分) 復習： 学んだことを500字程度にまとめ、教員になったつもりで今回の授業の再現を試みる(165分)						
8	Part.3【財政】基本事項(2)―「公共財」「外部性」「情報の非対称性」を通じて「市場の失敗」の意味を理解する 予習： ワークシート[8]の問題を解く(15分) 復習： 学んだことを500字程度にまとめ、教員になったつもりで今回の授業の再現を試みる(165分)						
9	Part.3【財政】予算(1)―「単年度主義」「会計年度独立の原則」等、わが国の予算のルールや仕組みを理解する 予習： ワークシート[9]の問題を解く(15分) 復習： 学んだことを500字程度にまとめ、教員になったつもりで今回の授業の再現を試みる(165分)						
10	Part.3【財政】予算(2)―「一般会計」「当初予算」等の予算に関する用語の意味を正しく理解する 予習： ワークシート[10]の問題を解く(15分) 復習： 学んだことを500字程度にまとめ、教員になったつもりで今回の授業の再現を試みる(165分)						
11	Part.3【財政】公債(1)―「建設国債」と「特例国債」の違いを押さえ、国債の「市中消化の原則」の意味を正しく理解する 予習： ワークシート[11]の問題を解く(15分) 復習： 学んだことを500字程度にまとめ、教員になったつもりで今回の授業の再現を試みる(165分)						
12	Part.3【財政】公債(2)―国債を償還する仕組みを押さえ、「基礎的財政収支(プライマリー・バランス)」の意味を正しく理解する 予習： ワークシート[12]の問題を解く(15分) 復習： 学んだことを500字程度にまとめ、教員になったつもりで今回の授業の再現を試みる(165分)						
13	Part.3【財政】租税―課税をする上で依拠しなければならない原則を押さえ、わが国における租税の分類や租税制度を理解する 予習： ワークシート[13]の問題を解く(15分) 復習： 学んだことを500字程度にまとめ、教員になったつもりで今回の授業の再現を試みる(165分)						
14	Part.3【財政】わが国の財政事情―「租税負担率」や「国民負担率」から国民の経済的負担の大きさを計測する 予習： ワークシート[14]の問題を解く(15分) 復習： 学んだことを500字程度にまとめ、教員になったつもりで今回の授業の再現を試みる(165分)						
15	Part.3【財政】わが国の財政事情―「租税負担率」や「国民負担率」から国民の経済的負担の大きさを計測する(30分)と学習到達度確認テスト(60分) 予習： これまで学習した内容を振り返る(180分) 復習： この授業で身につけたものを反芻する						
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞の経済欄に目を通すことを習慣とし、最新の経済動向を追うこと。</li> <li>・真摯に授業を受ける学生の志気を下げようとする行為(教室中に響く深い溜め息、大あくび、居眠り、私語、電子機器の使用等)を行った者に対しては退室を命じるなど、厳正に対処する。</li> </ul>						